

このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

市議団ニュース

2014年3月6日

No.97

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

非正規雇用の不安なくせ

継続雇用・労働条件改善を／井上ひさ子議員

井上ひさ子議員は、3月4日の予算特別委員会で、指定管理者制度における雇用問題について質問しました。

共産党市議団で行った区役所、区民センターの清掃業務労働者の調査から、**井上議員**は“給与は最賃、賞与なし、寸志なし、人手不足”“10年間働いても休みは取ったことがない。賃金が出ないから”などの実態を訴え、「施設で働く労働者を守る視点がないのではないか。賃金や安定雇用といったことまで本市として視野に入れるべき。一人でも二人でも正規雇用に変えていく努力が求められている」と迫りました。また、「指定管理者制度と再委託が、官製ワーキングプアの温床になっている」と指摘し、制度そのものを見直していくことを強く求めました。

平木改革推進部長は、「労働者の雇用環境の維持・向上は大切だが、施設運営とのバランスをどう保つか、難しい課題」「今後、どんな工夫ができるか検討したい」と答弁しました。

世界から信頼される街に

伊藤りち子議員が求める

伊藤りち子議員は、3月4日の予算特別委員会で、“誰もが住みたくなる国際都市”を掲げる札幌市国際戦略プラン(案)について質問に立ちました。

アンネの日記が破られたり、ヘイトスピーチが起きたりと日本の国際的信用をおとしめる事件が発生している問題にふれ、**伊藤議員**は、“誰もが住みたくなる国際都市”として、国際的信頼を勝ち取るために大切なのは、平和と安全。差別なく安心して過ごせることが誰の目にも明らかになること」と述べました。

これに答えて、**板垣総務局長**は「ヘイトスピーチは恥ずべきことであり、極めて遺憾。人権の大切さについて啓発を進めていく」としました。

伊藤議員は、本市が国際的な信頼を得ていくために、関係する部局と連携してしっかり対策を講じるべきとして、「ヘイトスピーチなど、人種や民族の差別を許さない、国際友好都市として誇り高い街であるということを宣言すべきだ」と求めました。